

自己評価報告書

平成 23 年 4 月 15 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20320087

研究課題名(和文) 評価結果に基づき小・中学校教師とともに開発する英語授業・教材・指導法
 研究課題名(英文) Developing English lessons, materials and pedagogy in collaboration with elementary and junior high school teachers, incorporating students assessment results

研究代表者

湯川 笑子(YUKAWA EMIKO)

立命館大学・文学部・教授

研究者番号：30309075

研究分野：英語教育、バイリンガル教育

科研費の分科・細目：言語学・外国語教育

キーワード：小学校英語、評価、カリキュラム、指導法、動機、小中連携

1. 研究計画の概要

小学校終了時の6年生の英語コミュニケーション能力や、中学校1年生の英語力と動機や学習習慣の状態を査定する。そうした実証データをもとに、小中連携がとれたカリキュラムと指導法モデルを、大学の英語教育関係者が小学校・中学校教師とともに協力して作ることを研究の目的とする。

2. 研究の進捗状況

(1) 実証データ収集に関しては、年々豊富に動機、リスニング能力、スピーキング能力データが収集できている。

(2) 小学校のカリキュラムについては、私立、公立の別はいうまでもなく、学校の事情によって多様なので、単一ではなく複数のサンプルモデルをまとめつつある。

(3) 中学校については既存の指導の体系や習慣があるので変革が難しい。また協力校である小学校と直接関係のある中学校との連携が望ましいので、入学生である中学生の個別の小学校の状況を理解し、中学校での指導の再考のニーズを認識してからの作業となり、時間がかかる。現状認識のための動機を中心とした質問紙調査結果をまとめて学校にフィードバックするなど、進捗はしているが、本格的な具体的なカリキュラムの見直しや指導法の開発については次年度の作業となる。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

小学生の英語コミュニケーションのアクセスメントデータはかなり豊富に収集し、口頭で

の発表はできているが、論文や一般刊行物として十分まとめられていない。中学生用の質問紙データも集まっているがこれから学会発表としてまとめていく段階である。カリキュラムについても報告書としてまとめたものはあるが、一般公開のための編集作業はできていない。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 最終年度の本年度中に、言語能力のアセスメント結果や、中学生の動機や学習行動および英語力についての質問紙調査結果を公開できる形にまとめたい。

(2) それらの実証データにもとづいた小学校と中学校(特に1年生)の指導内容や方法についても一般公開可能な形(特に小学校)がもしくは実践報告書(中学校)の形でまとめたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計3件)

(1) 湯川笑子・高梨庸雄・小山哲春・川中尚 「小学校英語活動における評価ツールの活用」、査読有、2009年3月、小学校英語教育学会紀要、9号、pp.55-70

(2) 杉本光穂・湯川笑子・森明宏 「英語専科教員および担任による絵本読み聞かせ」、査読有、2010年3月、小学校英語教育学会紀要、10号、pp.31-36

(3) Emiko Yukawa, Tetsuharu Koyama, Tsuneko Takanashi. 「What does Let's Talk tell us?:

elementary school students speaking performance variability and its relation to instructional content」、査読有、2010年10月、児童英語教育学会紀要、29号、pp.1-15

〔学会発表〕(計6件)

(1) Emiko Yukawa, Tetsuharu Koyama, Tsuneko Takanashi.

Assessing Japanese 5th/6th graders' English communication abilities-the YTK Project、2008年8月24-29日、AILA2008(国際応用言語学学会)、Essen, Germany

(2) 湯川笑子・高梨庸雄・小山哲春・川中尚 「小学校英語活動における評価ツールの活用」、2008年7月20日、小学校英語教育学会、福島市ビッグパレットふくしま

(3) 杉本光穂・湯川笑子・森明宏、[英語専科教員および担任による絵本読み聞かせ]、2009年7月20日、小学校英語教育学会、東京学芸大学

(4) 湯川笑子・小山哲春・高梨庸雄、「Let's talk が語ること」、2009年11月8日、児童英語教育学会(JASTEC)関西秋期大会、近畿大学

(5) Emiko Yukawa, Tetsuharu Koyama, Miho Sugimoto. An exploratory study on 7th grade students affective state in relation to their achievement、2010年8月6日、ASIA TEFL、Hanoi Vietnam

〔図書〕(計1件)

(1) 湯川笑子、高梨庸雄、小山哲春、『小学校英語で身につくコミュニケーション能力』2009年3月、三省堂、全208頁